

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177600384		
法人名	株式会社ふれあい		
事業所名	グループホーム樽川ふれあいはうす ユニット1		
所在地	石狩市樽川3条2丁目97番地		
自己評価作成日	平成30年7月8日	評価結果市町村受理日	平成30年8月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域のイベントや行事には積極的に参加して交流を深めています。季節ごとに大型バスでお花見、紅葉狩りなどにも出かけています。
普段から、みんなでできる、工作等のものづくりにも力を入れています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0177600384-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成30年7月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム樽川ふれあいはうすは、石狩・手稲線のバス停から5分程に位置し、周囲は住宅街、小公園や大型公園、神社仏閣、小学校、病院、商業施設等があり、利便性に優れている。玄関前は広く駐車場と菜園があり、ブドウ棚やナス、トマトなどの野菜、花が植えられ、利用者と一緒に取った収穫物をその日の食材として食卓に上っている。洗濯ポールには洗濯物や布団が干され、居間から続くウッドデッキではお茶会や日光浴を楽しんでいる。天気の良い日はドライブがてらアイスを食べに行ったり、近くの公園では憩いの場として地域の方が集まっており、子供や散歩中の犬との触れ合いは利用者の癒しになっている。毎年、雪道を踏みしめ荷物を持って遊戯披露に訪れる小学校の児童との交流は、利用者が感激する場面でもある。地域や行政、医療機関、家庭等の協力を仰ぎながら、職員は、ゆったりとした時間の中で1日1回は利用者に笑って欲しいと実践に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な会議の中で話し合いの場を持ち、日々のケア実践の場で立ち止まり、自ら振り返るよう心掛けている。	地域社会との関係性と利用者本位のケアサービスを謳った、系列3事業所共通の理念を事業所内に掲示している。独自のケア理念や標語を策定し実践に努めている。	各ユニットは、理念を具体化したケア理念の見直しを検討しているので、その実行に期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会主催の花いっぱい運動、夏祭り、清掃などに参加している。	清掃活動など町内会行事には、利用者と一緒に参加している。小学校児童の来訪や、地域の方からの介護相談や事業所見学、野菜や花の差し入れがある。町内会と法人合同の夏祭りでは地域交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の研修等に参加している。全体会議などで報告し情報を共有している。市の研修を受け、認知症まちかど相談所として看板を上げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催の中で活動報告し、意見や提案を頂き、サービス向上に努めています。地域の方々との交流の場として活用し、意見を反映できるように取り組んでいる。	会議は定期的開催し、参加者に事業所の活動報告やヒヤリハット公表、介護保険改定の報告、代表者から事業所内のカメラ設置の説明等があり、意見交換が行われている。家族の要請で、職員の名札装着が実現している。	統一した記載方法など議事録の整備と、会議への理解や参加拡大にも繋がる全家族に議事録送付の検討を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の訪問等があり、ホームの状況を見て頂き意見を頂いている。市内のグループホーム研修にも参加し、地域密着型としての機能を生かせるよう取り組んでいる。	事故報告や課題が生じたときは施設長が担当者に対応している。行政主催の会議や研修会に参加し、また、市の介護相談員や利用者の生活状況確認に訪れる各担当者とも情報交換があり、運営やケアの充実に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議等の場において身体拘束の指針を作成し全員で読み上げている	身体拘束廃止に向けて指針を整備し、会議等で適切なケアであるかを確認している。外部研修への参加を計画しており、伝達講習でさらに職員の意識統一を図っている。家族の同意を得て、玄関や居室にカメラを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加しケア会議等で話し合い、日々の言動や行動で虐待などはないか注意を払い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、スタッフの会議等で説明、理解できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にケアに関する考え方や取り組みの説明を行っている。重度化や看取りについての対応など説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方が何を考え、何をしたいのか、不満などないかをさりげなく聞き出す等、思いに添えるよう努めている。スタッフ間でも情報を共有し反映出来るよう努めている。	利用者の要望は、関わりから汲み取っている。家族には、事業所便りや来訪時等で利用者の日常を伝え、意見を引き出すよう努めている。課題が生じたときは、都度、会議で解決策を講じている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にユニット会議があり全職員が意見を出せるようにしている。	職員は、管理者にケアの改善や工夫を伝え会議で協議している。研修会参加やシフト調整なども柔軟に対応しており、職員の資質向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も定期的に来訪し入居様やスタッフと交流を持ち、向上心を引き出せるよう努めている。研修参加や資格取得に向けての取り組みも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市や道の協議会主催の研修に受講できるようにし、全体会議にて報告し職員全員で共有できるようにしている。働きながら学ぶ機会を大切にしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議やグループホーム連絡会などに参加して交流を深めたり、他のホームに入居しているご夫婦を定期的に面会が出来るよう交流を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族を交えた面談を通じ入所への不安を把握し、じっくり話を聞く機会を作り信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居に至るまでじっくり話し合い、本人やご家族の状況を把握し、入居後も報告相談を行い信頼関係が築けるよう努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の状況を把握し何が必要なのかを話し合い、支援の方向性を見極めて柔軟に対応出来るよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は出来るだけ自分でして頂いて出来ない所を支援するようにしている。笑いのある会話を心掛けより良い関係が築けるようにしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りや電話、面会時日々の状況を詳しく伝えたいと要望等聞くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得て買い物や理美容室へ出かけられるよう支援している。知人・友人の来訪時もゆっくり過ごして頂けるよう配慮しています。	面会に訪れる人数に合わせ、居間や居室に案内している。華道教授だった利用者にはお弟子さんが集まりお茶会をしたり、家族来訪時は散歩や外食、自宅訪問等の外出支援を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフ間で利用者同士の関係について情報を共有し、個々にあった過ごし方が出来るよう配慮、他者とのふれあいの場面作りにも配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された際にはお見舞いに行ったり、退院後について相談があった場合は助言させて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で観察している。本人のニーズや暮らし方の希望、ご家族の希望なども大切に受け止め、本人の訴え等から問題や課題を把握し改善を図っている。	利用者の思いは、言葉や様子、顔色に加え、家族からの情報や職員の気づきから推し量り、一人ひとりに沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や面会時にご家族から伺ったり、会話の中で情報を得て把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの生活のリズムを把握すると共に、その時の身体的・精神的な変化を見極めながら把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族からの要望や思いを聞き、その人らしく暮らせるような計画が出来るようカンファレンスを行い、個々に出した意見を反映出来るように心掛けています。	ケアプランは、利用者や家族から生活への意向を確認し、看護職員の意見や個別の記録を踏まえ、会議で適切な支援になる様検討をして作成している。ケアプランや個別の記録の見直しを考慮している	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりの中から気付いた事を記入し情報を共有、会議等で検討しプランに反映出来るようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族からの要望に添い、急な外出・外泊にも柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には市職員、民生委員の方に参加して頂いています。近隣の学校との交流や避難訓練には地域住民の協力を得ています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医と連携を図り、定期的受診や往診で体調の変化に配慮しています。	利用者の大部分は、月2回の訪問協力医を主治医としている。入居以前のかかりつけ医や専門医の受診は、家族や職員が協力して行い、情報を共有している。週1回の歯科医の往診もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置。日常の健康管理をしており、24時間体制で連絡が取れるようにしている。日々の体調についても相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は本人への支援方法についての情報提供を行い、ご家族と共に情報交換して早期退院へ向けての連携を図っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族より、事前指定・重度化、看取りの指針について説明し同意を得ている。又、随時意見を聞いています。	利用契約時に、重度化や看取りについての指針説明と看取りに対する意向確認を行い同意を得ている。状態変化時は主治医、家族と情報を共有し、看護職員の助言をもとにチームケアとして看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心配蘇生術やAEDの講習会に参加して、緊急時に対応できるよう努めています。緊急対応マニュアルを整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回の避難訓練を実施。近隣の方にも参加呼びかけています。推進会議等で石狩地区防災ガイドで確認し危険な場所と避難場所を確認しています。	年2回消防署の指導の下、日中・夜間想定での避難訓練を計画し、1回目が終了している。次回は、運営推進会議に合わせた夜間想定訓練を予定している。ポータブルストーブなど、災害備蓄品は随時用意している。	近くには海や川があり、また、高層建築物が少ない状況下での自然災害想定での訓練実施と、非常時に備え、地域とのさらなる協力体制の構築を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄に関しては、各居室にトイレがあり出るだけ他者に気付かれぬよう声掛けするなど、プライバシーが守られるように配慮しています。	正しい接遇のあり方は会議等で話し合っており、排泄や入浴、着替え時は、尊厳を損なわない対応に努めている。居室のトイレ設置は、プライバシー確保になっており、使用後は消臭剤を使っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい物や飲みたい物、着たい服など出来るだけご本人の意見を引き出せるよう配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の気持ちを尊重し、その人らしく暮らしていけるよう配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や整髪など、本人の意見を確認しながら一緒に準備するよう心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き出してメニューに取り入れています。準備や後片付けも一緒に出来るよう場面作りに配慮しています。	ユニット別に利用者の好みや栄養バランスに配慮した献立を作成し、利用者で食事作りを行っている。近所からの差し入れや、菜園の野菜を活かした献立もあり、会話の糸口になっている。食欲増進になる外食や出前、駐車場で焼肉なども企画している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフも一緒に食事する事で量や好み等の把握、水分チェック表で確認しながら飲んで頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力に合わせて声掛けや介助にて行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の様子や時間・パターンなど把握し、出来るだけトイレ排泄して頂けるよう支援しています。	排泄チェック表を活用しながら声かけや見守りで、居室や共用トイレでの排泄に繋げている。結果として失敗の回数が減っている。下着や衛生用品の使用は、利用者の状況に応じて使い分けるなど違和感への配慮がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のバランスや水分の摂取量の管理と共に、排便の確認や医師から処方された下剤を服用する事で予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望にそった形で入浴して頂けるよう配慮しています。入浴拒否や体調不良の方は曜日をええたり柔軟に対応しています。	浴槽は三方向から介助ができ、状態により2人介助やミストシャワーを活用しながら、週2回午後に入浴支援を行っている。要望によるボディシャンプーや石鹸の使い分け、色や香りを楽しめる入浴剤を使用しながら清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調や気分に合わせて、ゆっくり休息出来るよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルがあり、用法・容量について把握するよう努めています。服薬忘れ、誤薬がないよう声掛けしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々によって、掃除・食器拭き・音楽鑑賞など役割や楽しみが持てるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など一緒に出掛けています。歩行困難な方も車イスを使用して積極的に戸外に出る事を支援しています。	法人は、車椅子3台が積載できるバスを購入している。花見やもみじ狩り、外食等の年間外出行事以外でも、畑の手入れ、ウッドデッキでの日光浴、散歩、公園で子供や散歩中の犬との触れ合い、ドライブがてらアイスを食べに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じてお金が使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人に希望時、電話や手紙を出したり出来るよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が混乱しないよう程度に配置換えしたり、カーテンによる日差しの調整やお花などを飾って季節感を出すように工夫しています。	全体が広々とした造りになっており、清潔感や開放感がある。居間は、食堂と寛げる場所を洗面台で仕切り、メリハリある生活空間になっている。廊下や居間には、七夕飾りや行事写真、利用者の作品である書道等が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	バルコニー・ソファー・食堂・畳など、皆さん思い思いの場所で過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談の上、ベット・タンス・イス・テーブル等使い慣れた物を持ち込んで使っている方もいます。	7.5畳ある居室には、洗面台、トイレ、クローゼットを設置している。プライバシーへの配慮もあり、生活しやすい仕様になっている。馴染みの生活用品や趣味の物を飾り、落ち着いた環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせた声掛けをし混乱を防ぎ、安心・安全に生活が送れるよう配慮しています。手すり配置・バリアフリー		